

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	富山市恵光学園		
○保護者評価実施期間	R7年 1月 6日		～ R7年 1月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	114人	(回答者数) 103人
○従業者評価実施期間	R7年 2月 3日		～ R7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 5日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・小集団の療育の中で、様々な活動を通して個々のニーズに合わせたアプローチを行うことができる。	・定期的に活動内容を変更することで、子どもたちの興味を引きつけ、飽きさせない工夫をしている。その中で、机上課題や集団活動、小学校体験等を行い、社会性や協調性、手先の巧緻性、就学準備などを経験している。	・子どもの発達ニーズに応じた活動内容を提供し、成功体験を積み重ねることができるよう支援する中で、自己肯定感を高めていく。
2	・同じ建物内に作業療法士や言語聴覚士がいるため、連携をとり、専門的な視点からアドバイスをもらい、お子さんに合った支援をすることができる。	・課題の取り組みの中で、必要に応じて、作業療法士や言語聴覚士など専門的な視点からお子さんの様子を見てもらい、その場で保護者に対応方法など伝えてもらっている。	・専門的な指導を受けながら支援を進めていく。
3	・年長児とその保護者に対して、小学校に向けた授業体験や就学説明会等を開催している。	・児童指導員(教員経験者)と一緒に通常級や支援級の授業を体験することで、小学校に向けての期待、憧れ、意欲を引き出している。 ・保護者に対しては、就学説明会を行ったり、授業体験の様子を見てもらうことで、就学までの見通しや、学校・学級選びの手掛かりになるようにしている。	・保護者同士が情報交換できる場を設け、保護者の不安を軽減できるよう支援していく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・個別支援が必要な子どもに対して、細かなサポートやフィードバックが行き届かない場合がある。	・集団活動が中心になることが多いため、個別のニーズに十分に対応するための時間や職員が限られてしまう。	・個々の発達段階やニーズに応じた対応をより充実させるために、時間配分や支援体制を見直していく。
2	・保護者同士の交流の機会が少ない。	・療育時、保護者は母子同室であったり、ビデオを通してお子さんの様子を見るため、保護者同士の交流の機会がなかなか設けられなかった。	・保護者の要望を聞きながら、必要に応じて保護者同士の交流の機会を検討していく。
3	・身体を動かす活動時に、スペースが狭く感じる。	・事業所自体の物理的な面積が狭いため、児童が自由に動けるスペースが不足している。	・活動場所の環境を整え、職員が適切に見守り、安全を確保しながら活動できるようにサポート体制を強化していく。